入会促進特別委員長の7年間余を振り返って

柳沢　寿昭　陸自69

1　はじめに

平成22年3月に入会促進特別委員長を拝命して、7年余が過ぎた。数年前から、強く交代をお願いしてきたが、今回、冨澤理事長のご配慮で、お許しをいただくことができた。

後任は、新進気鋭の小渕信夫入会促進特別委員・理事（陸自78・工学博士）である。小渕新委員長は、私が東京地方連絡部長の時の募集課長という縁で入会促進特別委員をお願いした間柄であり、大いなる活躍を期待したい。

入会促進特別委員長を拝命して、最も嬉しかったことは、偕行社の元幹部自衛官入会促進のために、陸幕勤務でも経験したことがないような、素晴らしい実力（人間力）の持ち主の方々が大勢参画してくれたことである。自衛隊協力団体で、一つの委員会にこれだけ多くの実力者が参集している例は聞いたことがない。このような委員会が、組織できたのは、偕行社という組織が持つ魅力とOBになっても支援・協力していきたいという自衛隊、特に陸上自衛隊に対する強い想いによるものではないだろうか。

また、驚いたことは、偕行社が十数億円の資産を保有し、年間、相当な額の運用益を得て広範な活動を行っていることである。例えば、偕行社は、英霊の鎮魂・慰霊・顕彰に資するため、これまでに靖國神社や千鳥ヶ淵戦没者墓苑などに多額の寄付を実施している。また、各期の代表により毎月行っている月例参拝においても、靖國神社に毎回10万円の玉串料を奉奠、千鳥ヶ淵戦没者墓苑に毎回3万円の供花料、自衛隊殉職者慰霊碑に毎回お花をお供えしている。

交代にあたり、改めて、ご多忙な中、負担の大きい入会促進業務に、長年にわたり、ご尽力・ご協力いただいた入会促進特別委員並びに各地偕行会の役員をはじめとする入会促進協力特別委員、そして温かく見守っていただいた入会促進特別相談役等関係者の皆様に心から感謝申し上げる次第である。

以下、委員長在任間の入会促進特別委員会の活動の概要を述べる。

2　会員の増勢

22年3月、委員長就任時の元幹部自衛官の会員数は、997名（4月1日退会・除籍者を考慮すると958名）であった。その後、24年8月に2千名、29年2月に漸く3千名を達成することができた。

元幹部自衛官会員2千名の達成により、偕行社の元幹部自衛官会員による組織継承基盤は確立した。さらに、3千名の達成により、各地偕行会の組織継承基盤が概ね確立できると考えたが、各地偕行会については、いまだ緒に就いたばかりの偕行会が多く見受けられ、さらなる努力が望まれる。各地偕行会の継承基盤確立が遅れている主たる原因は、偕行社元幹部自衛官会員は順調に増加しているものの、地域在住の偕行社会員が、会費の問題等もあり、当該地域の偕行会に入会しないという、新たな問題が生起したためである。解決策の一案は、既に各地偕行会に提案しているが、過去の経緯もあり、なかなか進展しないのが現実である。

偕行社元幹部自衛官会員目標5千名は、容易に達成できる可能性が大きい。というのは、各方面隊業務管理集合教育学生（2佐以下）及び小平学校業務管理集合教育学生（1佐）に対する「偕行社についての説明会」の実施体制が整ったこと、後述の「準会員の普通会員への名称変更」、機関誌『偕行』及びホームページの充実、更に「隊友会・偕行社・水交会・つばさ会4団体による政策提言の実現」等各種施策が順調に実現・進展し、偕行社入会促進業務を取り巻く環境が好転しているからである。

陸上自衛隊出身の准尉以上の元幹部自衛官は約5万人いると推定され、偕行社が年度事業の最重点と位置付けて取り組んでいることから、元幹部自衛官会員1万人達成も夢ではない。

3　各地偕行会の元幹部自衛官会員による組織継承と会員の増勢

各地偕行会の元幹部自衛官会員の増勢等については、逐次進展しつつあるが、成果については各地偕行会によって格差がある。今後、かなりの困難を伴うことが予想される。

各地偕行会の会員増勢が、順調に進展することを心から願う次第である。

平成22年～26年、元幹部自衛官による組織継承を完了し、偕行社と連携して積極的に入会促進業務を推進した偕行会等は、次のとおりである。

○　岩手偕行会
○　宮城県偕行会
○　山形県偕行会
○　静岡県偕行会
○　長崎偕行社

新たに、平成27年度に「茨城」、「京都」及び「広島県」、28年度に「栃木

県」の各偕行会で、元幹部自衛官による組織継承が完了した。また、「北海道、青森県、群馬、愛知、近畿、島根、岡山県、香川県、熊本」の各偕行会、「愛媛偕行石鉄会」及び「筑後地区偕行会」等多くの各地偕行会の皆様に、偕行社と連携した入会促進業務の推進にご協力をいただいた。

4　入会促進に資する各種施策

(1)　元幹部自衛官会員会同の開催

元幹部自衛官の入会促進に資することを目的として、「元幹部自衛官会員会同」を4回開催した。

会同は、「元幹部自衛官が生涯を通じて絆を強め、親交を深める会」、「気楽で、肩の凝らない、居心地の良い会」をモットーとして開催。

本会同は、元幹部自衛官会員及び偕行社未加入の元幹部自衛官が、偕行社についての理解を深めるうえで、大きな役割を果たしたと思われる。

会同の細部については、それぞれ機関誌『偕行』に特集が組まれているので参照されたい。

ア　第1回会同（『偕行』23年8月号）

23年3月6日、初めての「元幹部自衛官会員会同」を、約120名の参加者を得て偕行社3階会議室で開催した。

「偕行社のあり方」を共通題目として次の講師をお迎えして実施した。

○　川口　渉　講師　陸自56
○　冨澤　暉　講師　陸自60
○　白石　一郎　講師　陸自61
○　大越　兼行　講師　陸自63
○　吉橋　誠　講師　陸自65
○　中村　幹生　講師　陸自73
○　山﨑　美千代　講師　陸自74
○　山形　克己　講師　陸自76
○　澤田　和明　講師　陸自93

最後に、志方俊之帝京大学教授（元北部方面総監）より、講演を総括して、コメントをいただいた。

イ　第2回会同（『偕行』24年10月号）

24年7月24日、「第2回元幹部自衛官会員会同」を、約200名の参加者を得てアルカディア市ヶ谷で開催した。

《プレミアムスピーチ講師》

○　兼坂　弘道　講師　陸自55
　元防衛大体育教官
○　笹　幸恵　講師　大妻女子大短大部卒　フリージャーナリスト
○　古庄　幸一　講師　海自69
　元海上幕僚長
○　瀧野　隆浩　講師　防衛大26期卒
　毎日新聞社会部編集委員
○　種村　良平　講師　陸自63
　コアグループ代表
○　寺島　泰三　講師　陸自56　東北大卒　元統合幕僚会議議長

ウ　第3回会同（『偕行』26年1月号）

25年7月27日、「第3回元幹部自衛官会員会同」を、約200名の参加者を得てグランドヒル市ヶ谷で開催した。

《プレミアムスピーチ講師》

第1部

○　和田　篤夫　講師　陸自78
　静岡県議会議員
○　中込　博文　講師　陸自73
　山梨県南アルプス市長
○　江戸　滿　講師　陸自57
　愛知県扶桑町長

第2部

○　村井　嘉浩　講師　陸自84
　宮城県知事

エ　第4回会同（『偕行』29年4月号）

29年3月10日、「第4回元幹部自衛官会員会同」を、約170名の参加者を得てグランドヒル市ヶ谷で開催した。なお、本会同は、「偕行社元幹部自衛官会員3千名達成記念会同」として実施された。

《プレミアムスピーチ講師》

○　赤松　義隆　講師　陸自57　鹿児島大卒　元富士学校普通科部長
○　志方　俊之　講師　陸自58　工学博士　元北部方面総監
○　曽我　政弘　講師　陸自58
　工学修士　法学博士
　元㈱日立電子代表取締役

(2)　現職自衛官等に対する施策

ア　小平学校業務管理集合教育学生（1佐）の偕行社訪問研修と説明会の実施。（年5回）

イ　28年度末までに、全方面隊で業務管理集合教育学生（2佐以下）に対する説明会が実施可能となった。

(3)　その他の施策

ア　年会費千円の会員制度と準会員から普通会員への名称変更

「年会費千円の会員制度」は、平成17年から18年の2年間、「偕行社役割検討特別委員会」に、参加させていただいた際に提案した制度である。

特別委員会の構成は、伊藤潔委員長53期、深山明敏副委員長陸自57、委員は森繁弘様60期、本田尚士様61期、今村耕一様名幼47、冨澤暉様陸自60、吉橋誠様陸自65、柳沢陸自69等で、毎月、委員会終了後、談話室でお酒を飲みながら、当時の消灯時間である22時まで、伊藤委員長を囲んでお話しを伺うとともに多くのことを教えていただいた。偕行社で最も楽しい思い出である。

「年会費千円の会員制度」は、平成19年度から、「限定購読会員」として始まり、その後、公益法人化の際に、正式な会員制度に取り入れられたが、名称は「準会員」であった。

今年3月の評議員会で、長年の念願が叶い、「準会員」の名称を廃止し、年会費4千円の会員と同じ「普通会員」

に名称が変更された。

今後の入会促進及び退会防止に、寄与するものと期待される。

イ「参与」制度の設置

6月の理事会で、新たに、定款に規定する会長及び相談役のほか、所要数の参与を置くことが承認された。

参与の任務は、この法人の一般的な対外広報を行うほか、理事長、各委員長及び事務局長等の相談に応じて参考意見を述べることである。参与は、①評議員、役員及び委員長等であった者②各委員会委員及び各地偕行会等の会長・副会長・事務局長等で、偕行社の活動において功労のあった者等の中から、偕行社に対する貢献度を考慮して、各委員長、事務局長及び理事等が推薦し、理事長が承認した者に委嘱される。参与の委嘱期間は、終身である。

参与を委嘱された会員は、名刺社会の日本において、「偕行社ロゴマーク、『英霊に敬意を。日本に誇りを。』、公益財団法人偕行社（元幹部自衛官と旧陸軍将校の会）参与」と記載された名刺を生涯使用することが可能となる。

これにより、「公益財団法人偕行社参与」すなわち「日本の防衛及びそれを担う自衛隊に関する有識者」としての誇りと使命感を持って、多様な分野で個人の能力を最大限に発揮しつつ、充実したOB生活を送ることができる。また、偕行社の最も良き理解者であることから、地域社会への偕行社のPRという点で、その効果は極めて大きいと考える。

5　おわりに

(1)　解決すべき自衛隊・陸上自衛隊の大きな課題に対する偕行社の貢献

憲法9条の下で警察予備隊・保安隊を経て誕生した自衛隊、特に陸上自衛隊は、解決すべき三つの大きな課題を背負っている。

第一の課題は、自衛隊が軍隊とは認められていないわが国において、自衛隊について国民に周知・徹底し、理解を深めることである。

第二の課題は、自衛官が軍人とは認められていないわが国において、公務員とは異なる自衛官の特殊性を考慮した適正な処遇を確保することである。

第三の課題は、四面環海の島国で海・空防衛力重視に傾き易いわが国において、陸上防衛力の重要性について国民の理解を深めることである。

最近、東日本大震災災害派遣等の影響もあり、自衛隊を取り巻く環境は今までにも増して好転している。

しかしながら、日本の防衛における自衛隊の役割についての国民の理解は、ほとんど深まっていない。特に、陸上自衛隊は、海・空自衛隊との予算における トレードオフ議論の中で、大幅削減対象として相変わらず苦しめられている。

従って、元幹部自衛官会員には、同期生会・同窓会的な集まりを超えた、旧軍出身の先輩とは違った心構えが求められるのではないかと考える。

元幹部自衛官にとって、偕行社は単なる元幹部自衛官の集まりではなく、「日本の防衛及びそれを担う自衛隊についての国民の理解を深めることの必要性・重要性を強く認識し、かつそれらに責任ある立場で関わった経験を有する有識者の集まり」である。

(2)　偕行社の将来に夢を託して

偕行社は、自衛隊部外関係諸団体の中で最も諸条件に恵まれた将来性のある、夢と希望の持てる組織である。偕行社に入会し会員になることは、個人的なメリットを求めることではないが、次のような意義があると考える。

第一は、偕行社会員としての公益事業への貢献である。偕行社は、十数億円の資産運用益により、広範な公益事業を行っている。従って、会員は、会員個人の直接的な活動の有無にかかわらず、偕行社の行う活動を通じて、慰霊顕彰や自衛隊に対する協力・支援等に大きく貢献していることになる。

第二は、前述のとおり、憲法に国防組織の保持が明記されていないという稀有な民主主義独立国家である日本において、特別な活動をすることなく、元幹部自衛官という責任ある立場で長年にわたり自衛隊に勤務した経験を活かし、町内会や小中高の同窓会等の通常の生活の場を通じて、国防の重要性について国民の理解を深めることにより大きく貢献できることである。すなわち、定年後、個人生活の枠に閉じこもってしまうのではなく、偕行社会員となることにより、引き続き誇りと使命感を持って、国・人のために貢献するという意義のある充実したOB生活を送ることができる。

第三は、偕行社の諸活動及び会員間の親交を通じて、生涯にわたり、会員・同期生間等の絆・親睦を深め、気楽で楽しいOB生活を送ることができることである。偕行社のように、生涯にわたり、気兼ねなく活動に参画できる組織は他にあまり見当たらない。長寿・高齢化社会を迎えつつある日本の現状を考えると、この意義は大きい。

最後に、会員は偕行社・偕行会を構成して活動を支える基盤であり、会員数は偕行社・偕行会のステータス及び発信力に重大な影響を及ぼすことをご理解いただき、引き続き、偕行社と偕行会が一体となってこの困難かつ重要な入会促進業務に取り組んでいただくことを切にお願いする次第である。

元幹部自衛官会員期別会員数の推移

29年７月１日							22年３月25日					
期別 相当期	防衛大・一般大				部内等	合計	期別	防衛大・一般大			部内等	合計
	目標	防大	大	小計				防大	大	小計		
～55			13	13	10	23	～55		24	24	23	47
56	50		34	34	4	38	56		9	9	6	15
57（1）	125	64	64	128	5	133	57（1）	36	24	60	3	63
58（2）	125	30	20	50	5	55	58（2）	19	5	24	6	30
59（3）	125	32	31	63	30	93	59（3）	33	17	50	5	55
60（4）	100	63	24	87	32	119	60（4）	57	18	75	3	78
61（5）	100	85	9	94	8	102	61（5）	36	3	39	4	43
62（6）	100	56	4	60	30	90	62（6）	26	2	28	16	44
63（7）	100	47	17	64	31	95	63（7）	40	9	49	47	96
64（8）	100	66	20	86	4	90	64（8）	15	2	17	2	19
65（9）	100	69	7	76	8	84	65（9）	51	2	53	2	55
66（10）	100	83	24	107	10	117	66（10）	28	4	32	1	33
67（11）	100	69	28	97	12	109	67（11）	17	7	24	2	26
68（12）	100	84	42	126	46	172	68（12）	19	2	21	8	29
69（13）	100	94	37	131	24	155	69（13）	59	15	74	8	82
70（14）	100	52	10	62	17	79	70（14）	13	3	16	8	24
71（15）	100	59	20	79	20	99	71（15）	29	7	36	8	44
72（16）	100	42	16	58	20	78	72（16）	21	10	31	5	36
73（17）	100	58	16	74	36	110	73（17）	23	1	24	8	32
74（18）	100	45	15	60	26	86	74（18）	17	7	24	7	31
75（19）	100	65	24	89	63	152	75（19）	8	2	10	8	18
76（20）	100	59	14	73	41	114	76（20）	2	1	3	5	8
77（21）	100	26	8	34	30	64	77（21）	2	1	3	11	14
78（22）	100	41	10	51	43	94	78（22）	1	2	3	9	12
79（23）	100	17	3	20	29	49	79（23）	0	0	0	3	3
80（24）	100	18	7	25	18	43	80（24）	1	0	1	1	2
81（25）	100	18	3	21	24	45	81（25）	0	0	0	3	3
82（26）	100	13	3	16	23	39	82（26）	0	0	0	1	1
83（27）	100	11	3	14	20	34	83（27）	2	0	2	2	4
84（28）	100	10	2	12	31	43	84（28）	2	0	2	0	2
85（29）	100	2	2	4	24	28	85（29）	0	1	1	2	3
86（30）	100	2	4	6	21	27	86（30）	0	0	0	2	2
87（31）	100	0	1	1	18	19	87（31）	0	0	0	4	4
88～		9	7	16	337	353	88～	4	3	7	32	39
合計	3,225	1,389	542	1,931	1,100	3,031	合計	561	181	742	255	997

元幹部自衛官会員都道府県別会員数の推移

29年７月１日						22年３月25日	
県等名	目　標	防衛大	一般大	部内等	合　計	県等名	合　計
北海道	400	65	33	133	231	北海道	65
青森県	100	6	1	36	43	青森県	3
岩手県	100	2	5	68	75	岩手県	7
宮城県	200	35	28	37	100	宮城県	19
秋田県	30	2	0	1	3	秋田県	1
山形県	100	5	2	51	58	山形県	1
福島県	50	6	3	15	24	福島県	7
茨城県	200	60	27	23	110	茨城県	34
栃木県	100	9	6	37	52	栃木県	12
群馬県	100	15	6	25	46	群馬県	25
埼玉県	500	240	78	68	386	埼玉県	141
千葉県	400	162	48	50	260	千葉県	123
東京都	500	258	82	51	391	東京都	177
神奈川県	300	113	24	23	160	神奈川県	75
新潟県	50	4	0	18	22	新潟県	7
富山県	30	6	2	1	9	富山県	3
石川県	50	11	3	14	28	石川県	5
福井県	30	6	3	1	10	福井県	2
山梨県	30	2	2	1	5	山梨県	4
長野県	50	9	3	11	23	長野県	4
岐阜県	50	8	7	7	22	岐阜県	13
静岡県	200	31	20	81	132	静岡県	18
愛知県	200	32	9	25	66	愛知県	21
三重県	50	7	6	13	26	三重県	9
滋賀県	30	3	2	3	8	滋賀県	1
京都府	50	5	11	6	22	京都府	12
大阪府	100	7	10	7	24	大阪府	9
兵庫県	100	28	12	26	66	兵庫県	18
奈良県	30	6	2	8	16	奈良県	4
和歌山県	30	2	1	3	6	和歌山県	2
鳥取県	30	4	2	4	10	鳥取県	3
島根県	50	3	8	18	29	島根県	17
岡山県	100	12	6	16	34	岡山県	7
広島県	100	13	11	9	33	広島県	3
山口県	50	7	7	17	31	山口県	9
徳島県	50	12	3	6	21	徳島県	10
香川県	100	24	7	22	53	香川県	6
愛媛県	50	10	4	10	24	愛媛県	4
高知県	30	3	1	6	10	高知県	3
福岡県	200	51	19	49	119	福岡県	49
佐賀県	50	10	3	10	23	佐賀県	9
長崎県	50	12	1	8	21	長崎県	3
熊本県	200	38	24	49	111	熊本県	21
大分県	50	9	4	3	16	大分県	7
宮崎県	50	4	3	7	14	宮崎県	6
鹿児島県	100	31	3	22	56	鹿児島県	17
沖縄県	30	1	0	1	2	沖縄県	1
合計	5,450	1,389	542	1,100	3,031	合計	997